

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.26 2010年9月25日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。暑さ寒さも、とはよく言ったもので、ちょうど今は空気の入替わり時期。記録的猛暑の後だけに、朝晩の涼しさはうれしさひとしおです。神学校の庭に植わっている植物もさすがに立ち枯れ続出で、寮生が交替で水やりをただけにちょっぴり残念。でも季節は巡り、今度は自然の摂理で葉が落ちる日々。地の管理を人に任せた神、人の力を超えた神の力、両方の比喻を用いたパウロを思います。

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」(Iコリント3:6)

校長 関野祐二

● いやし系、シゴキ系、はたまた格闘技系？

授業が、担当教師の個性と方針によって異なるカラーを持つのはご存知のとおり。ナントカは和気あいあいのいやし系、カントカは課題の連発シゴキ系、コレコレは〇〇〇先生の中でもいやし系などと、わけのわからぬ下馬評が飛び交うのは、次期にどの科目をとるか決める履修届提出前の恒例です。スッと教室へ入った途端に会話が途絶える時、ハハア、さてはと合点がいきます。ところで最近、格闘技系という新カテゴリーが登場(勝手に命名したのですが)。そのココロは、教師と学生が取っ組み合いさながらに議論したり、質問と応答が活発になされる双方向性クラスということ。最近話題の「白熱教室」みたいでかっこいいでしょ。わが聖書解釈学がまさにこれで、クラスの初っ端から「返されたレポートにこんな赤コメントがあるのですが、どういう意味ですか」とスゴミの効いた質問が飛んで来ます。苦勞して赤を入れたレポートを返却したと思ったら翌週に再提出、もう一度赤を入れて今度は納得してよとお返ししたら再々提出で返却期限付きという努力家(猛者?)も。どっちが課題を出しているかわからなくなりますが、こんなやりとりも大いに楽し。福音をどう理解しどう伝えるか、教師も学生も真剣勝負の格闘なのでから。

● カメラ同盟

ケータイを持たず、フィルムカメラにこだわり続けた旧人類も、「写真をメールで送ってください」とか、「神学校ニュースに載せる写真をデータでください」などの要望には勝てず、2年ほど前にデジカメ一眼購入(周囲は「墮落した」と酷評)。その便利さに目を見張っているところです。昨年でしたか、神学校の廊下をいつも大きなカメラ片手に闊歩するカメラ小僧が出現。うれしい(悔しい?)ことに同じメーカーの上位機種で、カメラ談義に時間を忘れるほど。そのうち、同系列のカメラを持つ在校生が3人も4人もいることがわかってビックリ(在校生にそのメーカーの現役社員がいる影響?)。これは摂理的などと勝手な解釈で、自然発生的なサークル会員を増やそうと意気込んでいた矢先のある日、学校見学に来た方がデジ一眼を買ったとおっしゃるので、思わず「どこのカメラ?」と聞いたら、なんとライバルメーカー! これがよかったのです。そう、

この神学校は多様性の尊重と違いを認めた相互理解がウリなのですから、派閥は御法度ごはつとなのですね。私のもステキだけとアナタのもステキ、カメラなんぞに興味がない人もOK、そんな交わりを育てたいと思います。自分が興味を持つ分野で他者をも喜ばせ、交わりが広がり、神の栄光を現すなんて美しいですね。まちがっても、イエスさまをお伝えしている者が、〇〇〇信者とかが△△△伝道師などと排他的な別名で呼ばれないよう気をつけなければ、と肝に銘じました。

● いつもオープンですが

聖契神学校では学校見学や授業見学を随時受け付けていますが、年一度のオープンキャンパスもたいせつにしています。一人で見学するほどでなくても、ユルイ関心さえあれば参加しやすいですし、それこそ家族が学んでいるので一度は現場を見てみたいという理由でも大歓迎。オープンキャンパスと銘打てば、いつもはクローズドキャンパスなのかと突っ込まれそうですが、そうでないことは在校生が一番よく知っているはず。自由と開放性を維持しつつも、福音の本質を見極めて堅持する、実はコレ、本校の母体である日本聖契キリスト教団の伝統でもあるのです。

今年は、新潟聖書学院の中村敏院長をお招きして、特別講義と講演会を企画しました。他校の校長をお招きするのも、閉鎖性を打破し神学校間で協力をしていく証し。日本海側と太平洋側、全寮制と単位制。違いがあるから素晴らしい（何かのCMみたい）。今年の夏キャンプ奉仕でおじやました、うらやましいほど星のきれいな神学校ですから、筆者にも身近。実は数年前、すでに新潟聖書学園デーの説教者としてお招きいただいているのです。中村師の講演、期待しましょう。

オープンとは、いいとこだけ見せるのをやめること。施設も破れかぶれ(?)で今更隠すものもないけれど、チャペルのドアが猛暑で歪み、閉まりにくくなったのは不便なので何とかせねば。

● さあ後期ですよ！！

先日の後期聴講生試験で5名が合格し、聴講終了者等との差し引きで、後期は74名スタート（数名の休学者含む）。一週間の学期休みを経た、10月11日（月）開始です（体育の日は授業時間数の関係で返上。すみません）。教師の都合で前期科目を後期に移動したこともあり、後期は前期より4科目多く、加えて5科目6科目履修者が複数いることから、科目履修総数は180を超えました（前期は160）。これは単純に、毎日の来校者がグンと増えるということ。授業開始前後、校長のお務めと自認している廊下でのあいさつも忙しくなります。ひとりひとりの学びの状況、将来の方向性、祈りの課題など、74名分をしっかりとYuSユースメモリに書き込んでおかなければなりません（すぐ飽和するので、外付けハードディスクの我が妻に助けられることしばしば）。

現役の牧師、伝道師、教会スタッフ、牧師夫人も在校生にかなり増えました。これは教師にとっても、観念的授業では通用しない大いなる刺激。11月からは昨年好評だったファミリーミニストーリーの続篇が始まります。多彩なゲストを予定していますし、単発の受講も可能ですから、ぜひお申し込みください。年が明ければ、霊性セミナーⅡ（Ⅰの受講者対象）も始まりますよ。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 新聴講生を含む74名の学び、健康、霊性が、10月からの後期、守られるように。
- ・ 「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」に多くの来校者が与えられるように。
- ・ 聖契神学校の働きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員15名、運営委員3名、理事5名の働き。多くの支援教会と支援者が備えられるように。